

# 建設新聞

Nikkan Kensetsu Shimbun

1月26日 土曜日

平成25年 第11641号

発行所  
日本建設新聞社  
千葉市中央区新田町5-10  
電話043-203-8171(代)  
FAX043-203-6658(代)

## 造園・土木・種子・客土吹付緑化

営業品目＝ 防砂防水シート・植生土のう  
各種芝・土壌改良剤・播種工



株式会社  
フタバ緑化産業

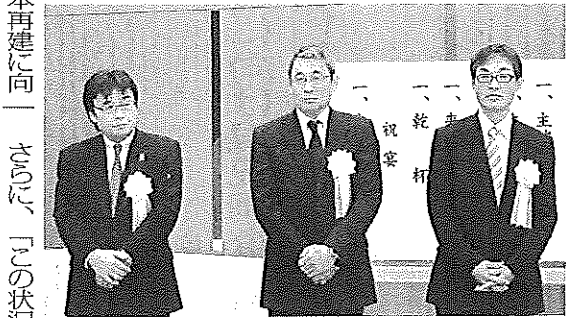
千葉市稲毛区緑町2-1-9  
☎043-243-0451

### 発注を 取組要望

詞交歓会

1340mで低地対策岸  
占事業を実施。また、坂  
川(松戸市)では500  
m区間で、多自然型護岸  
などによる河川再生事業  
が進められている。

理事長は、昨  
年を顧みて、  
「オリンピック  
ク開催など大  
きな感動が生  
まれた反面、  
国内外では政  
治・経済の問  
題が多発する  
など、混沌と  
した一年だっ  
た」と語った  
ほか、政権交  
代についても



3団体のトップ

業市も経済成長が実感で  
きる施策を進めてほし  
い」と強調。東日本大震  
災で、市内の復旧・復興  
へ大きく貢献した地元会  
員企業への優先発注検討  
を訴えかけた。

これに対して熊谷市長  
は、震災関連の復旧事業  
が完了したことを報告す  
るとともに、会員企業の  
昼夜分かたずの尽力へ厚  
く感謝。「市民には地元  
建設業の重要性を伝えて  
いきたい。また、地元企

## WBの普及拡大に意欲



花澤理事長

「WB」について言及  
一体化した15か月予算で  
考えているが、当初  
予算は得格予算のた  
め最低限となる。補  
正予算で計上された  
部分は出来るだけ早  
期に発注したい」と

県コンクリート製品協  
同組合花澤理事長は  
24日、千葉市の京成ホ  
テルミラージュで平成22  
年新年賀詞交歓会を開い  
た。組合員や来賓ら約50  
人が出席。同組合が開発  
した雑草抑制型道路用コ  
ンクリート製品「ウェー  
ブポウン」の普及など、  
組合のさらなる発展に向  
けて決意を新たにされた。  
冒頭にあいさつした花  
澤理事長は、同組合が開  
発した「ウェーブポウン  
ウ(WB)」について言及  
し、「拡大、普及に全力をあ  
げていきたい」と強調。製  
品の普及を通じた社会貢  
献を訴えるとともに、組合  
員の協力や支援を求めた。  
来賓あいさつでは、県  
土整備部技術管理課の宮  
内常吉課長と県中小企業  
団体中央会の藤原誠専務  
理事が登場。このうち宮  
内課長は、県議会2月定  
例会の開会に触れ、「県  
土整備部だけでも170  
億円の補正予算が計上さ  
れている。新年度予算と  
一体化した15か月予算で

## 新年賀詞交歓会 製品通じた社会貢献を

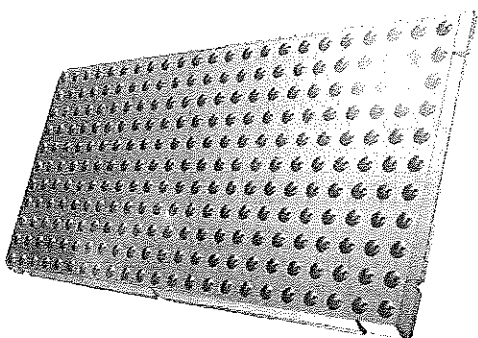


岡村支部長の発声で乾杯

述べた。  
乾杯の音頭は、全国コ  
ンクリート製品協会関東  
支部の岡村清孝支部長が  
担当。業界をめぐる様々  
な動きを報告した上で、  
「政権が変わったことに  
より、業界も忙しくなっ  
てくると思うが、中小企  
業者にとってはTPPな  
も視野に入れていく。

ど浜山の問題も控え  
ている」とし、同協  
会との連携を求めた。  
同組合が開発した  
雑草抑制型道路用コ  
ンクリート製品「ウ  
ェーブポウン」は、  
県土整備部からの相  
談を受けて21年度に  
開発を開始。22年に  
意匠登録を終え、昨  
年6月に販売を開始  
した。現在は、「千葉県  
型側溝」と「両エプロン  
付きフラット型車歩道境  
界ブロック」の2商品  
を展開。同組合委員のうち  
17社から供給できる体制  
を取っており、今後は製  
品ラインナップを増やす  
とともに、県外への普及

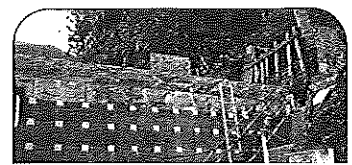
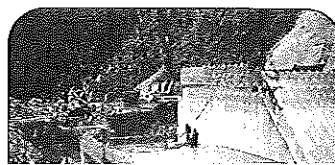
— 21世紀の地球を考えた型枠 —



技術審査証明取得製品

残存埋設型枠

# プロテロックピアス



建設材料

ゼロ